



北海道支部ニュース 第67号

公社) 日本分析化学会北海道支部 2023 年 7 月

巻頭言



公益社団法人日本分析化学会 北海道支部支部長
渡慶次 学 (北海道大学)

北海道もいよいよ夏本番を迎えます。これからさまざまな行事やイベントが目白押しです。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が 5 月から 5 類感染症に移行し、大学の講義はもとより、会議や学会も対面で実施されるようになってきました。5 月に開催された第 83 回分析化学討論会(富山大学五福キャンパス)では、COVID-19 パンデミック以前のように口頭発表とポスター発表が対面で実施され、活発な議論がなされていました。また、ANAクラウンプラザホテル富山で開催された懇親会は、「おわら風の盆」の演舞で始まり、立食形式で富山の旬の食材を使った美味しい料理や地酒が振舞われていました。

昨年の日本分析化学会第 71 年会(岡山大学津島キャンパス)では、懇親会は感染防止のため着席形式でしたので、私の記憶が正しければ、今回の第 83 回討論会は 2019 年 9 月に開催された第 68 年会(千葉大学西千葉キャンパス)以来の通常開催であったと思います。そう考えると

本当に長い期間、私たちは COVID-19 パンデミックにより、行動や学会活動を含む社会活動を制限されてきました。これから予定されている支部行事の緑陰セミナーや夏季研、氷雪セミナー、冬季研だけでなく、9 月に予定されている第 72 年会(熊本城ホール)で、また以前のように皆さまと対面で議論や親睦を深めることができることを楽しみにしています。

2 年後の 2025 年には、第 74 年会を北海道大学で開催する予定です。蠣崎悌司先生を実行委員長として予定していた第 80 回討論会(2020 年 5 月)が COVID-19 パンデミックで中止になったため、北海道では 2016 年に開催された第 65 年会(実行委員長:田中俊逸先生、会場:北海道大学工学部)以来となります。北海道支部のプレゼンスを示す良い機会だと思いますので、皆さんの協力をいただきながら、準備を進めていきたいと思っています。ご協力をお願いいたします。

(とけし・まなぶ)





2023 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部 2023 年夏季研究発表会が、9 月 3 日（日）に北海道教育大学旭川校（旭川市北門町 9 丁目）において開催されます（主催：日本化学会北海道支部、共催：日本分析化学会北海道支部ほか）。

今回の夏季研究発表会は日本化学会北海道支部創立 75 周年記念大会として実施され、発表会の中で創立 75 周年記念式典についても行われる予定です。また、菅 裕明 先生（日本化学会会長・東京大学大学院理学系研究科）および福岡 淳 先生（北海道大学触媒科学研究所）による 2 件の特別講演が予定されています。

なお、懇親会については 75 周年記念祝賀会とあわせた形で、同日 18 時 00 分（予定）より OMO7 旭川（旭川市 6 条通 9 丁目）にて行われます。夏季研究発表会としては 3 年ぶりの対面実施となり、記念大会でもあります。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

（旭川工業高等専門学校 堺井亮介）



2023 年 公開セミナー

今年度のセミナーは、2023 年 9 月 14 日（木）に「対面形式」で実施する予定です。講師に北海道大学大学院水産科学研究院の栗原秀幸先生と井上晶先生をお迎えし、「コンブ由来のアルギン酸分析が切り拓くブルーカーボン研究」を話題に据えて、それぞれお話いただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日時：2023 年 9 月 14 日 15:00～16:30

場所：北海道大学函館キャンパス（水産学部）第 4 講義室（函館市港町 3-1-1）

内容：趣旨説明（大型藻類ブルーカーボンの評価について） 大木 淳之

「大型藻類由来のアルギン酸の化学的特性と分析」

北海道大学大学院水産科学研究院 教授 栗原 秀幸 先生

「アルギン酸を分解・代謝する海洋生物 ～酵素に学ぶアルギン酸の自然リサイクル～」

北海道大学大学院水産科学研究院 教授 井上 晶 先生

（北海道大学大学院水産研究院 大木淳之）

これまでの終了行事報告

第58回 氷雪セミナー (ハイブリッド)

日本分析化学会北海道支部主催の第58回氷雪セミナーが2023年1月7日(土)～8日(日)に開催されました。今回は「下水」をテーマとした3件の講演を行い、17名の支部会員の皆さんにご参加いただきました。2021年1月に開催予定であった第56回氷雪セミナーは新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止になり、昨年の氷雪セミナーはオンライン開催でしたので、3年ぶりの泊まりがけの開催となりました。



1 件目の講演は「水循環基本法改正に向けたロビー活動の記録」という題で、中央大学理工学部 人間総合理工学科 教授の山村寛先生よりお話しいただきました。水循環基本法は、水循環に関する施策について、その基本理念を明らかにするとともに、これを総合的かつ一体的に推進するため2014年7月に制定されたものです。水循環基本法の一部を改正する法律が、2021年6月16日に公布、施行されました。改正では、地下水の適正な保全及び利用に関する施策が水循環に関する施策に含まれることを明記するとともに、水循環に関する基本的施策として地下水の適正な保全及び利用を図るために必要な措置を講ずるよう努める規定が追加されました。山村先生は水循環基本法フォローアップ委員会メンバーとして改正に尽力されました。法改正までの政治家とのやりとりなど、普段は聞けない立法の裏話を聞くことができました。

2 件目の講演は「上下水におけるAIの活用について」という題で、京都大学工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 准教授の西村文武先生よりお話しいただきました。最初に、第一次産業革命から第四次産業革命の話、第一次から第三次AIブームの話、Bigデータについて概要をご説明いただきました。多くの産業でデータ活用が注目されている中、土木の一分野である水道や下水道でもAIの活用が熱視線が送られていることを、データでお示しいただきました。下水道分野には、従来の環境保全の役割に加

えて、AIを活用した情報通信拠点や物質循環拠点としての役割が今後期待されるというビジョンをお示しいただきました。

3 件目の講演は「新型コロナウイルスの下水疫学」という題で、北海道大学大学院 工学研究院 准教授の北島正章先生よりお話しいただきました。下水疫学とは、下水中の病原性微生物(ウイルスを含む)の遺伝子を測定することにより、各種の疫病の発生・流行を補足する疫学調査の一つです。病院を介して得られる感染情報よりも早期に検知でき、無症状感染者をも検知できるなどの客観性を持っている手法です。本公演では具体的なサンプリング方法や分析の高感度化に関する研究成果についてお話しいただきました。さらに、札幌市で行われた3年間に渡る貴重なデータもお示しいただきました。

いずれの講演後も参加者から講演者への質問が多数寄せられ活発な質疑応答が行われ、久しぶりの対面での氷雪セミナー講演会を盛会のうちに終えることができました。これもご参加いただいた皆様のご協力の賜と感謝しております。講演会の後は懇親会を行いました。これも時間いっぱい話が尽きず、盛会となりました。最後に、講師の先生方はじめ、年明けのご多忙の折にも関わらずご参加いただいた参加者の皆様に厚く御礼を申し上げ、第58回氷雪セミナーの報告とさせていただきます。

(北海道大学大学院工学研究院 佐藤久)

化学系学協会北海道支部 2023 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部 2023 年冬季研究発表会（共催：日本分析化学会・日本化学会・石油学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会の各北海道支部）が、2023 年 1 月 24 日（火）・25 日（水）の両日、北海道大学札幌キャンパス・学術交流会館にて開催されました。



新型コロナウイルス感染症の影響による 2 年間のオンライン開催を経て、2023 年冬季研究発表会では、特別講演を含む口頭発表は対面、ポスター発表は対面およびオンラインでのポスターショートトークとブラウザブルウェブポスターの形式で開催されました。312 名のご参加と 8 社のご協賛をいただき、発表会は盛況のうちに終了しました。137 件の一般講演（口頭発表 94 件および Web ポスター発表 43 件）、1 件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や討論が交わされました。特別講演には、京都大学の生越友樹先生をお招きし、「正多角柱環状分子『ピラー[n]アレーン』を基にした分子空間化学」と題して、ご講演いただきました。

また例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定され、1 月 30 日（月）12 時 10 分よりオンライン形式（Zoom）《一般公開》にて授賞式が行われ、受賞者へ表彰状が授与されました（口頭発表 8 件、ポスター発表 3 件）。今回も例年行われている懇親会は開催できませんでしたが、新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月 8 日以降、5 類感染症に移行したことを踏まえ、次回は懇親会が再開され、参加者同士の交流が行われることが

期待されます。

発表会当日は、この冬一番といわれるほどの冷え込みと吹雪により天候が荒れ、JR の遅延や運休などがありましたが、大きな問題が起こることもなく、スムーズに発表会は運営されました。会場内では、この日のために議論や練習を重ねたと思われる素晴らしい発表や、質疑への応答を積極的に行う学生の姿が見られ、オンラインとは違った新鮮味のある雰囲気となっておりました。今回も要旨集の電子化、参加申込の Web 登録、プログラム集の廃止が踏襲され、経費削減と実行委員の負担が軽減されました。さらに、発表会までに実行委員会を重ねるとともに、Slack を使用して実行委員間で細かく情報交換が行われたことと、発表会場での学生サポートにより、久しぶりの対面開催を円滑に行うことができました。

今年の冬季研は、全体の発表件数に占める「分析化学・センサー」関連の講演件数は 13%（12 件）と昨年度 9% より若干増加いたしました。今後も、冬季研の運営にご理解いただくとともに、積極的な参加と発表に、ご協力をお願い申し上げます。

（酪農学園大学農食環境学群 中谷暢丈）

第 39 回 分析化学緑陰セミナー



第 39 回分析化学会緑陰セミナーが、2023 年 7 月 8 日（土）、9 日（日）に旭川市の旅亭 雪の屋にて開催されました。昨年度は人数制限をした現地とオンラインのハイブリッド形式での開催でしたが、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことから、本年度は人数制限をしないオンサイト開催となりました。

また、参加者同士の交流を図るために、3 年ぶりに懇親会も行いました。



旅亭 雪の屋の外観 ↑

旭川を一望でき、大雪山の雄大な景色や、美しい夜景も。数奇屋造りの純和風旅館が会場でした。

←集合写真(2023.7.8-9)

今年度は、4件の招待講演と15件のポスター発表が行われ、参加者40名の規模で開催されました。招待講演では、大阪公立大学大学院・理学研究科・化学専攻の坪井泰之先生＝写真下＝から、「新型光ピンセットの開発と物質科学への応用」という題目で、従来の光ピンセットの原理から金属ナノ構造や半導体ナノ構造を用いた最先端の光ピンセット研究についてお話いただきました。



また、2件目の招待講演では、北海学園大学・工学部・電子情報工学科の藤原英樹先生から、「ランダムレーザー光源の実現に向けた 作製・制御技術の開発」という題目でご講演いただきました。通常の光共振器レーザーとは異なるランダムな構造におけるレーザー発振の歴史から応用に至るまで大変興味深いお話をいただきました。

3件目の招待講演では、北海道大学・電子科学研究所の長島一樹先生から、「匂いのデジタル化と応用展開」という題目でご講演いただきました。

匂いの検知にとどまらず、機械学習を用いたデータ解析や分類、さらには生体認証や健康



講演の様子

診断への応用まで多岐にわたる内容をお話いただきました。

4件目の招待講演では、木更津工業高等専門学校・藤井翔先生に「赤外光～サブテラヘルツ光を利用した分析: マイクロプラスチックやコンクリートを対象に」という題目で、福島第一原子力発電所の廃炉問題を背景としたテラヘルツ光を利用したコンクリートの分析についてお話いただきました。

また、学生による15件のポスター発表も行われました。すべてのポスターで活発な議論が行われ、学生同士でディスカッションを通じて交流を深めている様子が印象的でした。

ポスター発表では教員による審査を行い、5件の優秀ポスター賞(北見工大・増田さん、北見工大・藤見さん、北大・佐藤さん、北大・野本さん、北大・武内さん)を選出いたしました。審査にご協力いただいた先生方には深く御礼申し上げます。



ポスター発表の様子

8日の夜には3年ぶりに懇親会を行いました。久しぶりの懇親会ということで、お酒を飲みながら参加者皆さんで交流を深める様子が散見されました。特に、学生同士の交流が印象的で、新型コロナウイルスの影響のため、はじめて懇親会に参加した学生も多かったようですが、大変楽しそうに他大学・他研究室の学生と交流している様子でした。

また、懇親会中に学生による研究室紹介を行

いました。各研究室の雰囲気がよく反映された発表で、大変楽しく聞くことが来ました。3年ぶりの人数制限のない緑陰セミナーとなり運営に不安がありましたが、参加者の皆様のご協力で大きなトラブ

ルなく大変有意義なセミナーにできたと思います。来年度も多くの皆様に緑陰セミナーにご参加いただけることを期待しております。

(北海道大学大学院理学研究院 今枝佳祐)



2023 年度 北海道支部事業計画

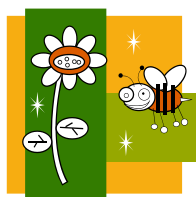
開催日	事業名	開催地	担当
5 月 16 日 (火)	第 1 回幹事会(オンライン)	札幌	支部長
7 月 8-9 日 (土・日)	第 39 回分析化学緑陰セミナー	札幌	今枝佳祐
7 月下旬	支部ニュース第 67 号	-	今枝佳祐 中屋佑紀
7 月 28-29 日 (金・土)	若手交流事業(九州支部へ派遣)	北九州	真栄城正寿 今枝佳祐
8 月上旬～	2024 年度役員候補者選考委員選挙	-	支部長
9 月 3 日 (日)	2023 年夏季研究発表会	旭川	堺井亮介
9 月中旬	2024 年度役員候補者選考委員会	札幌	支部長
9 月 14 日 (木)	2023 年度公開セミナー	函館	大木淳之
10 月上旬	第 2 回幹事会(オンライン)	札幌	支部長
	2024 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2023 年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会		
11 月上旬	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	石田晃彦
12 月中旬	支部ニュース第 68 号	-	今枝佳祐 中屋佑紀
1 月上旬	第 59 回冰雪セミナー	未定	上野貢生
1 月中旬 (火・水)	化学系学協会北海道支部 2024 年冬季研究発表会	札幌	中谷暢丈
2 月下旬	2023 年度北海道分析化学各賞授賞式	札幌	支部長
	審議会(第 3 回幹事会)		

2023 年度 支部役員

支部長	渡慶次学(北海道大学)
副支部長	坂入正敏(北海道大学) 木村・須田廣美(公立千歳科学技術大学)
庶務幹事	谷博文(北海道大学) 菅正彦(北海道教育大学)
会計幹事	真栄城正寿(北海道大学) 三浦篤志(北海道大学)
監事	蠣崎悌司(北海道教育大学) 伊藤慎二(元北海道科学大学) ほかに、参与 9 名・幹事 39 名

2022 年度 会計報告の概要

収入	単位(円)	支出	単位(円)
支部費	729,600	臨時雇賃金	240,000
印税収入	14,342	旅費交通費	115,920
受取利息	26	通信運搬費	46,673
収入合計(A)	743,968	消耗品費	20,750
当期収支差額(A-B)	△65,808	印刷製本費	33,000
		支払負担金	1,760
		支払助成金	130,000
		内部支払助成金	199,438
		表彰費	21,685
		雑費	550
		支出合計(B)	809,776



支部会員の欄



この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が理事会で認められた(「ぶんせき」誌2023年1月号～6月号のお知らせ欄掲載分)ほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

【新入会のみなさん】

正会員 1 名
○学生会員 7 名
(入会順・敬称略)

香川明慧 (ダットジャパン株式会社)

- NGO・THI THU THAO (北見工業大学)
- 市村天 (北海道大学大学院環境科学院)
- 上江洲杏佳 (北海道大学大学院環境科学院)
- 張帥 (北海道大学大学院環境科学院)
- 井村朱里 (北海道大学大学院環境科学院)
- 椎村響 (北海道大学理学部)
- 水谷晴香 (北海道大学大学院生命科学院)

編集後記



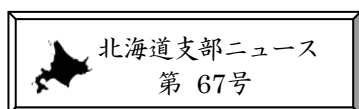
支部ニュース第 67 号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました渡慶次支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

本号から、今枝佳祐(北海道大学、再任)と中屋佑紀(北海道大学、新任)の二人体制で編集を行なっています。今年は新型コロナウイルス感染症の 5 類移行により、コロナ前と同じ形式で支部活動を開催できるようになりつつあります。

北海道支部の活動がますます活発になりますようにニュースを通じて貢献したいと思います。今回、新入会の皆様を迎え、今後も益々活発な支部活動となるように尽力してゆきたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただけましたら幸いです。

(編集委員 今枝佳祐、中屋佑紀)

- 編集・発行 公益社団法人日本分析化学会北海道支部
- 発行日 2023 年 7 月 25 日
- 事務局 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目1 北海道大学大学院工学研究院内
公益社団法人日本分析化学会北海道支部支部長 渡慶次 学



TEL 011-706-6744
E-mail jsac-hb@w9.dion.ne.jp
URL <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>